

研究発表 1

「図書館独自の危機対応訓練を実施して」

金城学院大学図書館 田中 宏樹

金城学院は 1889 年に、名古屋市にあったアメリカ南長老教会アニー・ランドルフ宣教師の私邸の中に「私立金城女学校」として設立され、125 年以上の歴史を数えている。大学は 1949 年に設立され、現在は 5 学部体制で、約 5,300 名の学生が在籍している。

金城学院大学では毎年防災訓練を実施しているが、図書館が主な対象とならない年もある。また、基本的には地震発生時の対応が中心であり、図書館で発生する危機対応としては不十分な面もある。

図書館が独自に、自館特有のリスクを考慮に入れた訓練を行い、図書館職員の危機管理意識を醸成するとともに、現行の危機管理体制の課題の抽出を行うことが必要であるとの考えから、独自の危機対応訓練を実施することとした。

危機対応訓練は、2014 年 9 月 16 日（火）に開催し、午前には、地震発生に伴う避難訓練、午後には、防犯対策訓練を行うこととした。午後の訓練については、他の図書館の事例を参考にして、愛知県守山警察署に防犯対策訓練の講師を依頼した。

今回の発表では、危機対応訓練の詳細について紹介する。

研究発表 2

「みなさん、ついで防災がオススメですよ。」

美作大学図書館 二宮 敦

あらゆる災害を想定し、最適化された防災体制を構築することは現実的には不可能である。

防災と、図書館業務が時としてトレードオフ関係（一方を追求すれば他方に犠牲を強いる関係）にあることは否定できないが、そうではなく、図書館業務に組み込める防災も存在する。本研究発表では、それらの防災手法を、「図書館業務のついでにできる防災＝ついで防災」と名付け、ついで防災の有用性や可能性と、様々な事例を紹介する。

ついで防災は万能ではなく、ついで防災だけであらゆる災害から図書館や図書館利用者を守ることはできない。しかし、ついで防災の導入により、防災という際限のない命題に対する諦観・無力感を、少しでも取り払うことができれば幸甚である。

ついで防災の手法に正解はなく、各図書館の運営・業務や、置かれた環境に合わせて無限にカスタマイズできる。本研究発表を端緒とし、それぞれの図書館でついで防災が導入され、広まっていくことを願う。

研究発表 3

「福井豪雨被災事例に学ぶ水害対策」

仁愛大学附属図書館 近藤 ふみ

仁愛大学は、平成 13(2001)年に開学した福井県越前市に所在する小規模大学である。前身の短期大学時代を含め、自然災害による被災事例はなく、また当館独自の防災対策も検討していなかった。そこで、福井県内の図書館で被災経験のある福井市立みどり図書館の事例を取材し、自館の防災対策に生かせることを考察した。

福井市立みどり図書館は、平成 16 年 7 月 18 日（日）未明からの記録的な豪雨により、1 階開架室が床上浸水、地下機械室は水没となった。当日は閉館日であったが、迅速な職員招集・退避活動によって資料への被害を回避できた。（公文書・廃棄予定資料が一部水没）当時の状況のほか、翌年 3 月の復旧開館に至るまでの作業と、その後の防災対策などを当時の職員に取材した。その結果、止水板などのハード面の対策だけでなく、年 2～3 回の防災訓練のほか、緊急時の放送原稿や役割分担の徹底など、日頃からソフト面の対策もとられていることが分かった。

水害の状況と復旧に至るまでの作業を紹介し、それらの中から事前に対策できること、日ごろから備えておくべきこと等について考察する。